

23年度りんりん総会開かれる

折からの台風接近により、降りしきる雨にもかかわらず60名の出席者を得て総会が開かれました。

「設立 17 年を迎えました。ここまでこれたのも皆様の活躍あってこそです。また若い人の協力もあり、あとに続く人材も育っています。「りんりんは人が素晴らしい」と外に向かっていえること一有難く思います、100 年続くりんりんを目指しましょう」との村上代表のあいさつに続き6名の 10 年勤続表彰に移りました。

皆さんそれぞれに、利用者さん・りんりんのスタッフ・家族との素敵な出会いやサポートを 10 年の感慨と感謝と共に振り返っているようでした。



第二部は『トオねん取って 60 代』と題して、りんりんの財産ともいえるベテランヘルパー 船戸さん・加藤さん・塩谷さんに登場していただきお話を聞きました。司会を中野さんをお願いしました。

○入会の動機は？

- 退職(半田病院・看護師)したばかりの頃で、さてこれから何をしようか?と思っていたときりんりんの立ち上がりの会にでくわしました。とりあえず連絡をとってみたのが始まりです。これまでやったことのない家事援助を依頼されました。(F)
- 勤めながら長年主人の看病の間に病院で教えてもらったことや、家族の精神的なフォローのことなど自分の経験が活かせるのではないかと、思っで始めました。NTTのオペレーターの経験から「一人住まいの人に電話で話し相手を…」と市役所に提案したこともあります。(K)
- 両親の介護をしていましたが、7人いた家族がだんだんと減り一人になりました。専業主婦で世間知らずですが、外とつながっていたいと思ってヘルパーをはじめました。(S)

○ヘルパーとしてのモットーは？

- 私を信頼していただいて、利用者さんが少しでも安心して楽しく過ごせるようにと思っています。死ぬまで現役でいたいものです。(F)
- 相手の言葉をかんぐらないでストレートに受けとるように心がけています。現場には十人十色の利用者さんがいます。自分がいいと思ってやったことも裏目にでることもあり、自分の常識ではからず、あなたの常識はなあに?という気持ちで利用者の気持ちに添うことです。(K)

来賓あいさつ



県議員
近藤 良三氏

東日本大震災の被害状況が新聞、テレビ等で連日放送されている中で、4月10日開票日の県議選が実施されました。

私が申しあげるまでもなく、選挙では、候補者は政策等を出来る限り有権者の皆様にお伝えし、審判を頂くそれが選挙の大前提であります。とは言え、全国各地であらゆる面での“自粛ムード”の漂う中で、各候補者は、“伝える”と

“自粛”2つの気持ちのはざままで悩みながらの難しい選挙戦でした。

皆様のご支援により議席を頂きました今、東日本大震災を決して忘れることなく、選挙戦を通じて訴えてきました政策の実現に向けて、精一杯努力をいたしてまいります。

最後になりますが、だれもが必要な時に必要な介護が受けられるよう“りんりん”の皆さんとともに頑張っていきますので、ご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

- 「利用者さんが少しでも楽しくしていることが自分たちにとっても一番嬉しい」とご家族に言われました。相手の立場に立って、なるべく“明るく元気よく”を心がけています。(S)



- 利用者さんに「私は生きていて意味があるのだろうか?」と問われたら?
- 神様のおかげだから生きられるだけ生きて…。(F)
- 病気の主人をかかえて「どういう状態でも、どういう身体でも、生きていてほしい」と思っていました。与えられた命です。あなたがいることは家族にとっても意味があります。(K)
- 寿命がある限りしっかり生きなければもったいないです。以前死にたいと言う方に、ふと見つけた新聞に載っていた“絵てがみ”を見せると、見事に気持ちを切り替えられたことがあります。それには『生きているだけで 丸もうけ』と書いてありました。(S)

○あとに続くヘルパーさんにひとこと

『誠心誠意すると利用者さんやその家族の方にもかならず心が通じます。家族のグチも聞きながら、寝ている本人が一番大変と理解して利用者さんに寄り添ってほしいと思います。』

来賓あいさつ



県議員
堀寄 純一氏

この度、市民の皆様のご信託を賜り、県会議員として4年間県政の一翼を担わせていただくこととなりました。

介護の現場において、介護する家族の負担というのは図り知れません。その負担を少しでも減らし、不測な事故が起きる前に、地域と行政が連携をとっていく必要があります。体の自由が効かなくなりふさぎこんでいくお年寄り

が、自宅でこもりがちにならないよう、コミュニケーションをとる場所として「りんりん」の担う役割は、非常に大きいと考えております。

また、地域全体で子供たちを見守り、育む環境を作り、留守家庭などの子供たちが安心して過ごせるよう、安全で健やかな居場所を作っているに深く感謝いたします。

皆様の声を県政に反映させることを目指し、政治に取り組んでいきたいと思ひます。

勤続 10 年表彰

● みなさんにひとこといただきました ●

私は、“デイサービスりんりん”に働く前に保育の仕事をしていましたが、介護は素人で戸惑うことも多く、3年間位は緊張の日々でした。しかし、そんな私が10年間続けられたのは、利用者さんとの会話や遊びがとて楽しかったからです。人生経験豊かで学ぶことも多いですが、慣れてくるとまるで友だちのように冗談を言い合い笑いが弾む、そんな楽しい雰囲気がとても好きです。もちろん介護の大変さ、難しさ



もたくさん経験しました。特に認知症の方についてはスタッフ全員で状況を常に把握し、勉強し、対応を考え、時には演技もし、乗り越えてきたように思ひます。良いスタッフとともに今後も楽しく働いていきたいです。 近藤 恵子

振り返るとあつという間の10年間でした。こう思える環境で仕事を続ける事ができてとても幸せです。

これからも努力を忘れず、「りんりん」と共に歩んで行きたいと思ひます。よろしくお願いいたします。 澤田ゆかり

勤続 10 年表彰

みなさんにひとこといただきました

生活を支えるとはどういうことなのだろうか?で始まった10年前。医療ではなく福祉の中での看護を模索する中、いろいろと教えて下さった利用者の方やご家族に感謝したいと思います。皆様の笑顔や「ありがとう」の言葉にどれだけ力をいただいたことでしょうか。またくじけそうになった時、辛いときに、暖かい言葉で元気づけてくれたスタッフの皆さんに感謝したいと思います。この仕事に理解をし、黙って見守ってくれている家族にも感謝です。

少しでも利用者さんの手助けになればと思い活動してきましたが、実は私が一番支えてもらっているのかも知れません。 島 真美子



利用者さん0人から始まり、本当に“デイサービスりんりん”を運営していけるのか、不安でいっぱいでした。毎年お別れする方があり存続していけるのか、心配しながらこの10年間勤務してきました。

デイサービスの運営、介護方法、すべて利用者さんに教えていただいたと思い、感謝しています。家族と過ごすより、利用者さん

と過ごす時間の方が長くなり、嫁・幼なじみ・母・同僚など利用者さんの求めるままに毎日変身して、楽しく仕事をさせていただいています。末永く“デイサービスりんりん”を利用していただけるように今後とも努力していきたいと思います。 竹内 恭子

“デイサービスりんりん”でドライバーとして活動してきました。

今後も安全運転に努めていきたいと思います。 中野 貞子

私も、やはり「あつと言う間の10年でした。」

りんりんとの出会いはヘルパー2級の修了式に村上代表が「誰か事務の仕事をしてみない?」と言われ、ノコノコりんりんについて来ました。周りのみんなの助けもあってなんとか10年間仕事を続けることが出来ました。まだまだ経理事務も分からないことが多いので、日々努力し、これから20年を目指して頑張りたいと思います。

清水奈穂美



特定非営利活動法人
りんりん 総会

平成23年(2011) 6月

NO.48

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援がりんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

高木 宏 竹内佐多夫 加藤美代子 (敬称略)

平成23年度賛助会員

田上 光大	榊原 幸宏	大岩 武久	市川 幸夫
市野すなを	川島 直子	杉江 義明	須賀 幸子
加古 淳	寺本由美子	木村 静子	近藤 直美
川井 滋子	近藤 和江	石川 雅子	齒科ハミール
杉田 博子	榊原 佳子	吉田二三子	鞍田まち子
中川 桂子	榊原 綾子	吉田 房子	吉川 智子
小林 叡子	休波 京子	清田 友子	中川八栄子
越智 伸子	榊原 裕子	榊原 初美	蜷川 英子
竹内 幸子	堀 松美	榊原 紀子	加藤美代子
熊井須真子	(敬称略)		

朝早く 暑さ呼び込む セミの声
びんこう

りんりんのできごと

研修会

4月 産後期支援について.....38名
5月 倫理規定「プライバシー保護について」.....33名

	4月	5月
絵 手 紙	15名	13名
さをり織り	27名	26名
生き活きサロン	198名	188名
小物づくり	12名	10名

(延べ利用人数)



会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合 計
92名	43名	36名	171名

(H23/5月現在)

特定非営利活動法人 りんりん



—総会特集号—

～生命・生活・人生～

台風2号の嵐の中で総会が行われましたが、県会議員・市議員4名と60名の会員出席のもと無事終了しました。

東日本大震災では、今私たちにできることとして、被災された方々への募金活動を始めました。5月31日現在140,891円となりましたので、これにりんりんの寄付金を加えた30万円を(働)さわやか福祉財団を通じて、またりんりんから10万円をNPO法人市民福祉団体全国協議会(市民協)を通じて被災されたNPO法人へ送金させていただきました。

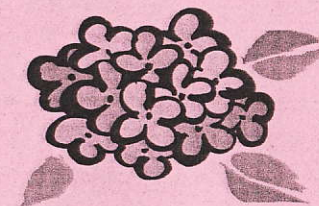
ご協力ありがとうございました。これで一件落着としないで被災された方々を忘れず思い続けるために、この一年は何らかの活動をし続けたいと考えています。

当日の私のあいさつの中で、国立長寿医療研究センター研究所で生活機能を専門にしている大川弥生医師の話。「“生には生命・生活・人生の三つがある”避難された方々のその生命さえ救えばいいのではない。生活そして人生を大事にする全人間的復権こそ、リハビリテーション医学だ」と。そしてリハビリテーションには“復興”という意味もあることをそのお話から、知りました。

これは避難された方々だけの話ではなく、今日本中が忘れかけている最も大切なこと、根源的なこと、が指摘されていると感じま

した。超高齢化社会の激流に乗っている私たちですが、生命と生活と人生を本当に大切にすると心と設計を忘れず、そうした社会の実現にむけて活動していきたいと考えています。

理事長 村上真喜子



※(働)さわやか福祉財団・市民協はりんりんが長く加入している団体です。